

首輪標識ハクチョウ類観察記録

1978 10/30～1978 2/27

(A)の文面は昨年来日した IWRB のマシューズ局長が帰国後、東ヨーロッパとソ連の IWRB メンバー 18 名に対して 1980 年 2 月、日本で開催礼定の IWRB 代表者会議と白鳥研究会議の方針を示すとともに、1979 年の代表者会議の予告をしたものの要約です。

(B)の資料は、ソ連標識調査活動を代表する AA キシンスキー博士から、日本の山階鳥類研究所長あてに送られてきた文面の一部から標識ハクチョウのデータだけを抜粋したものです。文面には、日本における標識ハクチョウの卓越した観察態勢と観察者の優秀さをほめたたえ、今後とも一そう資料の交換をはかりたいとしています。

(A) [IWRB 委員会の代表者会議と Scientific Symposia について]

われわれは、財政的なこととか、計画にあたっての問題点などを確認して受け入れる場所を決定します。

1980 年第 16 回代表者会議について、日本の同僚から 1980 年 2 月北海道札幌で開催したいと申し出をしてきました。

1971 年スリムブリッジで開かれた第一回国際白鳥会議以来その研究調査は急定な進歩をとげていることが年来の Symposium の結果がわかりました。そして日本では IWRB に国際会議を開きたい旨を提案してきました。

日本の冬になると、ソビエトから飛来するオオハクチョウ、コハクチョウと研究観察するためにも、ぜひ代表を派遣してください。

正確な日程が決ったら通知します。

代表者会議	2 日間	} 6 日間
Symposium	2 日間	
ハクチョウ観察 小旅行	2 日間	

もうご存じのこととは思いますが、1978 年第 14 回代表者会議を開催します。この場合研究会議は開きません。同会議は 14 ヶ月後の 1980 年日本における代表者会議にあてます。1979 年の代表者会議は西ヨーロッパで開催したいと思います。しかし手はずなどは、まだ未定です。私たち、イギリスの同僚たちは、イギリスで代表会議を開いたらどうかと話し合っています。そして

Wildfowl Trust は 1979 年 6 月初旬、よろこんで代表者会議の主催をしたいと申し出ます。

この通知はまだ不十分だということはわかっていますが、あなたがたが招待に応じていただけることを望みます。

IWRB 1/4 世紀を本部で祝いたいと思います。

マシューズ

(B) [ソビエトにおける 日本の標識 ハクチョウの回帰状況について]

1. オオハクチョウ 緑 IC32 (足輪 140-01032)

北緯 4° 12' 東経 143° 09'

サハリン

Poronaysk 地方 (ポロナイック)

Terpenya 湾付近

Nevskoye 湖南部 で殺されていた

2. コハクチョウ 緑 008 Y (足輪 140-00008)

北緯 59° 20' 付近 東経 143° 20'

ハバロフスク

Okhotsk 地方 (オホーツク)

Shilka 川北部 で殺されていた

[1974 年 - 1977 年ソビエトにおける 首輪標識ハクチョウのバンディング状況]

チャウン湾地域でコハクチョウに首輪標識をつけた 北緯 68° 50'

東経 170° 30'

Magadan の A. J. Kondralyev によって

Magadan Chukots 地方

チャウン川 Palyawayam 川下流域です。